

新中野訪問看護ステーション

主任 天野 広児

理学療法士としての経験年数の約半分以上を、在宅の分野で過ごしてきました。私が考える在宅でのリハビリの魅力は、チーム医療としてご利用者の目標やニーズに即したりハビリが提供できることにあると思います。

いま思い起こせば約10年前、病院勤務の時はどうなれば退院できるかを第一に考え、退院後の生活というものなかなか想像できなかったように思います。しかし在宅でのリハビリは、ご利用者が何に困っていて（主訴）、どうなりたいという思い（目標やニーズ）が明確で、それに即したりハビリ、つまりご利用者様本位のリハビリが実践できます。たとえリハビリだけでは解決が難しくても、チームとして他職種と連携して解決に結びつけることもできます。正直なところ、ご利用者のなかには、なかなかモチベーションが上がらない方や大きな改善が期待できない方もいらっしゃいます。そうした方でも、些細な訴えやニーズを聞き出し、少しでも変化があるととても嬉しそうな表情をみせることもあるのです。ご利用者様とセラピストという関係ではなく、「人」と「人」として接することができる（適切な距離感を保つ必要性はありますが）のも、在宅の大きな魅力となっています。

また私は、社内で主任という役職を任されています。主任とは、一言で言えば所長と協力してステーションをまとめ、外部との交渉役を務め、地域への貢献を図ることが主な仕事となります（もちろん、理学療法士としてご利用者にリハビリも提供しながら…）。一つのステーションには多様な職種のスタッフがいて、経験年数も短い人からベテランまで様々。ですからステーションをまとめると一言で言っても、そう簡単ではなく正直苦勞することは多いです。しかしどうすればリーダーシップを発揮しまとめられるかを常日頃から考え・実践していること、それが確実に自分自身の成長に繋がっていると感じています。さらに外部との交渉や地域への貢献では、社内だけでなく社外にも様々な人脈を作り、多種多様な人と接することが出来るので、良い刺激となっています。

このように主任として働くことは、いち理学療法士として経験できる以上の経験ができ、人として成長する機会となっています。

みなさんも、ぜひ弊社でご利用者様本位のリハビリを実践してみませんか？そして管理職として、自分自身の更なる成長を図ってみませんか？

一緒に働けることを楽しみにしています。

